

石原 豊子 選

特  
選

祖父と指すはじめて勝った対局は忘れられない夏の思い出

広島城北中学校二年 大谷 心

【評】 帰省して祖父と将棋を指すという体験。しかも強い祖父に勝ったという作者の心の成長を表現したよい歌。

水面を泳ぐ笹船追いかけた幼き日々を懐かしむ今

県立広島皆実高等学校一年 浮田 成実

【評】 笹船を浮かべて遊んだ幼き頃のこと。その周囲の諸々のことを思い出し懐かしむ作者の心を表現したよい歌。

暑い朝平和の鐘が鳴り響く八月六日の静かな時間

県立広島中央特別支援学校中学部一年 中谷 悠人

【評】 平和祈念式典の鐘の音を聞き、作者の心に広がる「平和」への思いが「静かな時間」に表現されているよい歌。

帰り道ひとり神社で手を合わす父さんの癌治りますよに

広島市立船越中学校二年 上田 葵

【評】 病身の父への深い想いが伝わる歌。そのことを友にも言えず帰り道に「ひとり神社で」に寂しさが伝わる心の歌。

姫路城桜の木々に囲まれて歴史の中に吸いこまれてく

呉市立仁方中学校二年 植田 早貴

【評】 姫路城の桜木の中に立ち、作者は姫路城の歴史への思いを「吸いこまれてく」と表現したよい歌。

一まいに心をこめたおりづるが羽をはばたき飛んでいきそう

三次市立八次小学校四年

新川 音羽

怖かった大きな音で目が覚めた今も思い出す土砂災害の夜

三原市立大和中学校二年

森貞 葵巴

ジーゼブン広島で各国代表だけでなくみんなでちかう平和な世界

呉市立蒲刈小学校五年

井上 和波

ヒロシマの晴天の空傘をさす二度はおこさぬ誓いを込めて

県立広島国泰寺高等学校二年

上原 青泉

早起きしテレビつけて式を見る家族そろって黙祷をする

比治山女子中学校二年

野田ゆらら

隣国が急に攻め込む二月末無差別攻撃散った人命

廿日市市立野坂中学校二年

浅尾 龍汰

広島で世界のトップ顔合わせ叶えて欲しい核のない世界

福山市立城北中学校二年

新田 暁

マスク焼け早く直れと気にしつつ五月の空気胸いっぱい吸う

呉市立川尻中学校二年

山田こもも

夏の夜川の近くにほたるたちぴかりぴかりと光をはなつ

三次市立八次小学校六年

家原 琉恩

宮島の花見を終えたけいだいに寄りくる鹿の頭をなでる

尾道市立向東小学校五年

山本 寛太

ゆうえんち空中ブランコくるくると目までくるくるおりののこわい

三次市立八次小学校二年

田中 颯人

帰り道黄色いひまわり咲いている元気な姿夏が始まる

福山市立駅家南中学校二年

臂 花音

爽やかな五月も過ぎて熱風が初夏を伝える午後の教室

県立広島皆実高等学校二年

成藤 万葉

病室の窓から見える紫陽花のきらめく露に暑さ忘れる

県立広島皆実高等学校一年

高松 そら

コンクール勝負が決まる十二分歓声をうむ高三の夏

呉市立呉高等学校三年

小山内美華

歩く度足元鳴らす枯れ葉の音<sup>ね</sup>耳にも目にもうつる彩り

呉市立呉高等学校三年

南雲 星麗

盆の墓色鮮やかな灯籠がゆらゆらゆれる広島町の町

呉市立呉高等学校三年

神野 七海

ふゆの朝一番乗りの教室で隙間からさす朝日染しむ

福山市立松永中学校三年

佐藤ななみ

夏祭り町が彩る不夜城でダンジリ前に心が踊る

呉市立川尻中学校二年

道上 奈香

なつのあさせみのうるさいなきごえがわたしをおこすしぜんのアラーム

英数学館小学校六年

久富さくら

石原 豊子 選

特  
選

まだ死なん九十余歳の心意気二合の米を仕掛けて眠る

福山市 肥後 弘子

【評】読み手に元気の伝わる歌。特に四句五句に作者の「まだまだ負けな  
いぞ」と、意気込みが強く表れているのがよい。

亡き夫の肩の丸みがそのままの背広吊せり晩夏の日ざしに

福山市 林 スミ子

【評】亡くなられた夫を偲ぶ歌。その気持ちを「肩の丸みがそのままの背  
広吊せり」と素直に表現されているのがよい。

実家消え跡地に立てばそこかしこ父母はらからの声湧いて来る

広島市 松本壽賀子

【評】実家の跡地に立ち幼きころを偲ぶ歌。四句五句の表現に作者の思い  
が伝わる。特に「声湧いて来る」に強く伝わってくる。

病室のベッドに横たう父の手の握れば返すかすかな力

廿日市市 東 知佳子

【評】 病身の父への深い愛が伝わる歌。四句五句の親子の情の通い合う表現、特に「返すかすかな力」は読み手の心を打つ。

慰霊碑へ献花の首脳見学はほんの一部のヒロシマの過去

広島市 土居 直子

【評】 G7サミットの報道観ての歌と思われる。「ほんの一部のヒロシマの過去」に当時の被爆の思いを痛切に詠っている。

おふくろも親父もない故郷は心の距離が遠くかすめり

精霊船父の名ゆれる響灘こよい最後の引潮にのる

閉店の店主の挨拶貼り終へて客を迎へぬ扉を閉じる

体調を崩せしわれを気遣いて息子は雑炊の作り方を問い来る

母逝きて娘が母となる知らせあり遺影の母に報告の夏

被爆者の調査といわれ友の母ジープに乗せられ連れてゆかれし

広島は裸足でかけめぐる翻訳されて世界の国を

ただ独り残しゆく娘の頭撫で被爆の伯父の声無く逝けり

樽募金したてふ姉の仏前に十連勝を告ぐ夏の朝

沖縄の返還巡る密約を報道したる記者は逝きたり

三原市 上村 純治

福山市 富田 清人

呉市 松原 恵子

広島市 長尾 裕子

豊田郡大崎上島町 底押 悦子

安芸高田市 井上 愛

広島市 山口 順子

三次市 堂本 明美

竹原市 入駒 智子

広島市 吉川 徳子

夕ぐれは十円玉のほひする握つて走つた駄菓子屋までを

広島市 森 ひなこ

瀬戸内の平和うるわし春めくも遠いくさに心痛めり

広島市 山本 憲治

補聴器をはずせば音のなき世界なにもなくなつただに立ちおり

三次市 川崎富士子

親爺さんと親しまれし山毛櫓倒る万の抱擁受けしその幹

広島市 清水 勝子

数知れぬ犠牲のありて値上がりの卵ひとつを味はひて食ふ

福山市 高橋千恵子

つぎつぎとハードルを跳ぶ勢ひでわが子は今日の出来事を言ふ

広島市 熊谷 純

ちよつぴりを程良く思う齡なり気づけば傘寿少しが楽し

広島市 今井 徳子

雪ふりて杉の木立の暮れ早し枝を打ちては妻と呼びあう

庄原市 永宗 敏昭

陽を受けし蜜柑が風に揉まれいる樹下にて野良着の妻が手を挙ぐ

尾道市 仲尾 修

霧ひくく漂ふ野道を朝練の坊主頭の自転車がゆく

安芸郡海田町 光岡 詔子